

茨城大学農学部研究室訪問交流会のご案内

主催 茨城産業会議／茨城大学
共催 いばらき成長産業振興協議会

茨城産業会議は、茨城大学との産学連携事業として、例年、茨城大学農学部の研究室訪問交流会を開催しております。本交流会は、大学の有するシーズの提供や情報交換を通じ産業経済界の活性化に資するもので、多くの貴重な情報が得られると好評です。

本交流会では、研究発表の聴講や自由見学及び研究交流相談などを行います。多数の方々のご参加をお待ちしております。

1. と き 平成23年12月20日(火) 14:00～18:00
2. と ころ 茨城大学農学部 事務管理棟2階第1会議室 (阿見町中央3-21-1 TEL 029-887-1261)
3. 集 合 13:50までに茨城大学農学部 事務管理棟2階「第1会議室」にご集合下さい。
4. 定 員 50名 (定員になり次第締め切らせていただきます。)
5. 参加費 無料 (但し、懇談交流会参加者は1名1,000円をご負担いただきます。)
6. 申込方法 別紙申込書にて以下の申込先へ12/15迄にFAXまたはメールでお申込み下さい。

申込先団体	TEL/FAX
茨城大学学術企画部 (地域連携担当宛)	TEL:029-228-8605 FAX:029-228-8586 メール renkei@mx.ibaraki.ac.jp
(社)茨城県経営者協会 (茨城産業会議事務局)	TEL:029-221-5301 FAX:029-224-1109 メール info@ikk.or.jp
茨城県商工会議所連合会	TEL:029-226-1854 FAX:029-224-7117
茨城県商工会連合会	TEL:029-224-2635 FAX:029-226-0955
茨城県中小企業団体中央会	TEL:029-224-8030 FAX:029-224-6446

< 内容 >

時間	内容
挨拶 14:00～14:15	茨城大学理事 (事業担当) 影山 俊男 氏 茨城大学農学部長 太田 寛行 氏
研究発表(1) 14:15～14:45 質疑応答	DNA マーカーの作出と利用 (久保山 勉 准教授) DNA マーカーは個体識別から、連鎖地図の作成、量的遺伝子座の検出に至るまで様々な用途があります。ここではアサガオにおいて次世代シーケンサーを利用し、非常に多くのマーカーを1度に作製する技術について紹介します。また、イネの交雑で雑種が異常となる原因遺伝子の単離によって明らかになった異常発生メカニズムとその応用の可能性についても紹介する予定です。
研究発表(2) 15:05～15:35 質疑応答	アブラナ科植物黒腐病菌のタイプⅢ分泌エフェクターXopRの機能解析 (古谷 綾子 助教) 多くのグラム陰性植物病原細菌の病原性には、タイプⅢと呼ばれるタンパク質分泌システムが必須であり、病原細菌は注射針様構造の本分泌系を介して多くの機能性タンパク質 (エフェクター) を植物細胞内に直接注入します。本発表では、アブラナ科植物黒腐病菌の XopR エフェクターの病原性への関与について検討し、これまでに得られてきた知見を紹介します。
研究室自由訪問及び研究相談受付 15:45～17:00	※研究室を自由に見学 (見学可能な研究室は次表のとおりです) ※研究交流相談は事前に参加申込書にてご送付いただき、当日「研究交流相談コーナー」へお申し出ください。
懇談交流会 17:00～18:00	「こぶし会館」1階食堂にて開催 (会費 1,000円)

懇談交流会 研究紹介(1)	サポニン成分をターゲットとした美味しく健康によい大豆の開発に向けて (白岩 雅和 教授) 良質のタンパク質と脂質に富み、さらに多くの食品の三次機能を有する食品素材である大豆において、「サポニン」の生合性を人為的にコントロールし、低不快味および食品機能性の観点から大豆の付加価値を向上させるための研究を紹介します。
懇談交流会 研究紹介(2)	3次元加速度計および動画解析の手法を用いた盲導犬の誘導歩行解析 (小針 大助 講師) 動物行動学的観点から、行動の機能解析、評価、応用研究を行っている。今回は、それらの中から、盲導犬の訓練歩行時の誘導能評価研究について紹介する。誘導歩行の評価には、犬および人に3次元加速度計を装着して、その振幅リズム解析を行うとともに、歩行時の動画から、3次元動画解析の手法を用いて、歩行状態の評価を行った。

研究室自由訪問

領域	研究室名	氏 名	研究概略
生物生産科学	作物学研究室	新田洋司 教授 浅木直美 准教授	1. バイオ燃料作物スイートソルガムの栽培制御に関する研究：栽培制御の概要をご説明いたします。 2. おいしい米が有する形態学的・生態学的特性の解明：電子顕微鏡や分析機器を用いた実験をご覧ください。 3. 緑肥や作物残渣を利用した作物の栽培技術の開発に関する研究：研究の概要をご説明いたします。
	環境動物昆虫学研究室	北嶋康樹 准教授	植物に寄生するダニである「ハダニ」を材料にして、その生態、分類、DNAによる系統解析、薬剤抵抗性メカニズムの解明、天敵を利用した防除などを幅広く研究しています。 これらの研究を支えるべく、研究室では常時、様々な地域で採取した200系統以上のハダニとその天敵を飼育しています。
資源生物科学	生物制御化学研究室	戸嶋浩明 教授 長谷川守文 准教授	生物制御に関わる低分子生理活性物質（有機化合物）を対象とした化学合成・構造解析・微量分析などの研究を行っています。
	食品生化学研究室	白岩雅和 准教授	本研究グループでは、大豆など食用植物を材料として、これらに含まれる有用な二次代謝物質の化学構造の決定、薬理作用の評価、植物体における代謝経路の推定と生理的役割の解明を行っています。さらに、これらの物質の代謝を人為的に制御することによって、食味性および食品機能性の観点から食糧資源としての大豆などの付加価値を向上させるための研究を行っています。
	食品分子機能学研究室	米倉政実 教授	主に食品素材中の機能性成分（タンパク質・ペプチドなど）の分離や特徴づけなどの基礎的な研究を行っています。
	分子微生物工学研究室	久留主泰朗 教授	有用微生物の分子育種

※茨城大学農学部の学部・学科や教授陣について詳しくお知りになりたい場合は、同学部のホームページをご参照ください。アドレス <http://www.agr.ibaraki.ac.jp/gakubu/index.html>

会場案内図



